

受験番号	氏名

トヨタ看護専門学校
2025年度入学試験問題（国語） 全三頁中一頁

一 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

いくら「痛い、痛い！」と ウツタ^aえてみたところで、「痛そうだな」ということは伝わっても、どんな痛みなのか、わかってもらうことは難しい。そこに痛みの X がある。

「インフルエンザにかかって寝ています」——この言葉があの大きな経験のどれだけを伝えるだろう。（中略）病人自身の苦しみは、友人たちの心に、彼らがかかったインフルエンザ、彼らが味わった痛みや苦しみを思い出させるだけなのだ。
（注¹ ヴァージニア・ウルフ『病むことについて』川本静子編訳 みすず書房）

一億人以上が亡くなったとも推定されるスペイン風邪。この文章は、ヴァージニア・ウルフがスペイン風邪にかかったあとに書いたもので、文中の「インフルエンザにかかって寝ています」はスペイン風邪のことだ。

ヴァージニア・ウルフがその痛みや苦しみを語っても、聞いた人が思い出すのは自分のインフルエンザ（それはスペイン風邪ではないのかもしれない）の痛みや苦しみのことなのだ。

つまり、人は手持ちの痛みでしか、他人の痛みを推測することができない。むこうずねをぶつけたとか、足の小指を家具にぶつけたとか、誰もが同じような経験をしている場合には、「ああ、あれは痛いよねー！」と共感することができるが、たとえば高齢者の関節痛などは、ある年齢に達しないと経験しない痛みだから、若者がそれを聞かされても想像が及ばない。年寄りには痛い痛いと思病っぽい、と思ったり しかねない^A。

さらに、たとえばガソリンに長時間接触したための化学熱傷というような、普通はあまり経験しないような痛みとなると、自分がやけどしたときのことを思い出すだけで、それ以上は類推のしようがない。「へえー、痛いんでしょうねえ」などと 間の抜けた^Bことを言ってしまう。

痛みをわかってあげられなかった コウカイ^bが、私自身にもある。何度目かに入院したとき、六人部屋にクローン病の青年がいた。クローン病というのは、潰瘍性大腸炎^cと同じ炎症性腸疾患^d（IBD）だ。近い病氣の人が同室なのは初めてだったし、自分より年下というのも初めてだったので、かなり親しくなった。こっちは二十代前半で、むこうも同じだったが、ひとつかふたつ下だった。

クローン病は小腸に狭窄^eが起きることがある。狭窄とは、腸が狭くなって通りにくくなることで、とても痛いそうだ。その痛みはおそらく、腸閉塞に近いと思われる。

潰瘍性大腸炎では狭窄はあまり起きないし、私はまだ手術前だったから、腸閉塞の痛みを知らなかった（腸閉塞というものの自体、知らなかった）。だから、彼から狭窄の痛みについて聞いても、痛いのは大変だなと思うだけで、まったくわかっていなかった。まったくわかっていないことさえ、わかっていなかった。

彼は狭窄のために手術することになっていた。手術の日まで、彼は「痛い、痛い！」と痛がっていて、痛み止めの注射をずっと打っていた。ただ、その注射は、あまり連続しては打てないので、痛がっても、「もうしばらく我慢してね」と看護師さんから言われることも多かった。

痛いのを我慢しなければならない彼に、六人部屋の他の五人も大いに同情していた。「かわいそうに」「もっと注射してやればいいのに」などと。しかし、そういう日が何日もつづくと、だんだんみんなの気持ちに変化してくる。本当にそんなに痛いのかな？ こいつがなさけないやつなだけじゃないのかな？ という疑いが芽生えてくる。看護師さんも、連日なので、だんだんあつかいが ぞんざい^cになってくる。最初のうちは「我慢してね」とやさしかったのに、「もっと我慢しなきゃ！」と叱る感じになってくる。その対応を見て、同室の五人もそれに合わせるように、だんだん冷たくなっていく。ついには、「痛い、痛い！」とうめいていても、看護師さんにも素通りされ、他の五人にも相手にされなくなった。

私は、のちに腸閉塞になって、痛み止めを打ってほしいと看護師さんに コンガン^dしていたとき、彼のことを思い出した。^①そのときの私は彼と同じだった。彼はこんなにも痛かったのかと思った。いや、彼は手術になるほどだったのだから、もっと痛かっただろう。それなのに、同じIBDの私すら、わかってあげられなかった。彼は、激しい痛みに苦しみながら、なさけないやつと見なされ、「痛い、痛い！」という悲鳴すら無視されてしまっていたのだ。どんなに孤独だったことか……。

じつは、彼としゃべったのは六人部屋だけでなく、その半年後くらいに、もう一度、会ったことがある。お互いにもう退院していた。彼のほうから連絡をくれて、私はあまり出歩けなかったので、彼のほうが近所の喫茶店まで来てくれた。彼は宗教に入っていた。怪しいものを売っていた。ああ、そういうことだったのかと思った。わざわざ連絡してきて、会いに来てくれたのは、それを売りつけるためだったのかと。

しかし、そうではなかった。彼はあくまで近況を語っただけで、それを私に売りつけようとはしなかった。これは意外だった。もし本気でその宗教を信じているのなら、私のことを救うためにも、本気で売ろうとしたはずだ。つまり、彼は Y^e。自分でもわかっているのだ、本当に信じるに足る宗教ではないと。私は、せつなくなった。おそらく、彼の痛みの話を親身に聞いてくれて、理解してくれた（たとえ嘘でも）のは、その宗教の人たちだけだったのだろう。

難病になってから私は孤独だったが、彼の孤独はさらに深かった。それは彼のほうがより痛みに苦しんでいたからだ。宗教に入る人をばかにする人もいるが、^②私はとてもばかにはできない。私自身は宗教には入っていないし、決して入らない決意だが、それはまだそこまで追いつめられていないだけかもしれない。宗教に入れば、どんなに他人に理解してもらえなくても、孤独になっても、最後に神様がいてくれるのだ。なにしろ神様だから、なんでも理解してくれる、いっしょにいてくれる。

私はお前たちのその痛さと苦しみをわちあう。そのために私はあるのだから
（遠藤周作「沈黙」新潮文庫）

ガソリンに長時間接触したための化学熱傷とか、クローン病とか、特別なことでなくても、ありふれた痛みでも、その当人にとっては、自分だけにしかわからない特別さがある。経験したとたん、「ああ、これは同じ経験をした人でないと、到底わからないだろう」と感じる。実際、話してみても、相手にまったく伝わっていないことが、相手の返事や態度ですぐにわかる。相手がどんなに親身であつてもだ。

あなたは人間としてできる限りのことをやりましたが、あなたが持っていないものは理解できないのです。だれにもそれはできません。そして、ぼくだけが自分のなかにすべての心配と不安を持っており、それらは蛇のように生まなましいのです。
(フランツ・カフカ『決定版カフカ全集11』フェリーツェへの手紙(Ⅱ) 城山良彦訳 新潮社)

これは痛みについても同じだ。
痛みには

X

 がもれなくついてくる。

(頭木弘樹「痛いところから見えるもの」による。 出題の都合上、一部を省略した箇所があります。)

注1 ヴァージニア・ウルフ……イギリスの小説家。『ダロウェイ夫人』、『灯台へ』など。

問一 傍線部 a↘e のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 傍線部 A↘C はそれぞれのどのような意味か、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | |
|-----------|----------------|-----------------|--------------|
| A 「しかねない」 | イ してしまわないか心配だ | ロ することがあるかもしれない | ハ することはないだろう |
| | ニ することはよくないことだ | ホ するとは限らない | |
| B 「間の抜けた」 | イ 配慮が欠けている | ロ 予想外のことに驚きあきれる | ハ 体調が優れない |
| | ニ 意味がはつきりしない | ホ 道理からはずれている | |
| C 「ぞんざい」 | イ いいかげんで、なげやり | ロ 思うままに、ふるまう | ハ 丁寧に、注意深く |
| | ニ 思いがあり、人を見下す | ホ 怖がり、しりごみする | |

問三 傍線部 ①「そのときの私は彼と同じだった」とあるが、何がどのように同じだったのか、三〇字以内で簡潔に説明せよ。

- 問四

Y

 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。
- | |
|-------------------------|
| イ 本当には信じていないのだ。 |
| ロ 私のことを救う気はなかったのだ。 |
| ハ 私が思うほどの痛みを感じていなかったのだ。 |
| ニ 痛みから逃れる方法を知らないのだ。 |
| ホ 本当は神様を疑っていたのだ。 |

問五 傍線部 ②「私はとてもほかにはできない」とあるが、それはなぜか、三〇字以内で簡潔に説明せよ。

問六

X

 に入るものとしてふさわしい言葉を、文中から探し、漢字二字で答えよ。

二 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

働き手不足が提起する問いは深遠である。

当たり前のことだが、誰もがまず「いかに来てもらうか」と問うことだろう。手を集めないと、モノもサービスも作れない。実際、賃上げや外国人労働者をめぐる法整備など、様々な社会的対策がなされている。大切なことだ。しかし、それだけでは足りない。

同時に、「いかに居てもらうか」が問われねばならない。離職を防ぎ、元気に働き続けてもらうこと。人間が持続可能でなくては、無限に手を集め続けなくてはならず、そしてそれが無限ではないことこそが問題なのである。

そのために、当然給与や労働時間などの ^a タイグウ 改善がなされるわけだが、やはりそれだけでも足りない。人の役割が決定的だ。働き手は孤立するとき、働き続けられなくなる。だから、職場に面倒を見てくれる人がいて、心を許せるつながりがあることが必要だ。

そう、働き手はモノやサービスを生み出す「手」でもあるけど、本質的にはそれぞれの人生を抱えた「人」である。サステイナブルな職場であるためには、そこで働く人間がサステイナブルでなくてはならない。このとき、制度やお金だけではなく、人間は人間に支えられるという深遠な現実に直面せざるをえない。ほら、働き手不足に直面すると、次から次へと人間についての問いがあふれてくるではないか。

人間を支える人間、つまり具合が悪くなったときに面倒を見てくれる上司の話をしたい。私も病院や大学で働いているときには散々お世話になった。幸運な出会いだったと思う。大学を辞める相談をしたときも、ひどく心配してくれて、仕事を肩代わりし、^bエンマンに退職できるようにと多くの配慮をもらった。おかげでポンコツながらも、そこから1年以上職場に居続けることができた。無限に面倒臭い仕事を増やしたと思うのだが、嫌な顔一つしない彼らのことを、「徳が高い」と思わざるを得なかった。

「徳が高い」とは時代がかった表現ではあるが、本質的には「例外への^cキョウウ性」のことなのだと思う。原則とは異なることが起きたときに、「そういうこともあるよね」と受け入れて、例外的な対応をしてくれることだ。結局のところ、人間は具合が悪くなると無限に例外的なことをしてしまうし、誰でも必ず例外的な状態になってしまう時期がある。そういうときに、「あるよね」と受け止めてくれる上司がいるとどれだけ助かるか。ただし、この徳の高さがきわめて^d属人的なものであるところに悲劇がある。それは気質であり、人生経験の果実であり、個性であるから、誰もが技術的に身につけられるものではない。原則は研修や本で学べても、例外にはその場で、そしてその人らしさで対応せざるをえない。すると、徳の高い上司の元に、私のようなケアを必要とする部下が集まるようになる。

企業からの相談を受けていて、いつもつらいと思うのがこれだ。徳の高い上司たちは熱心にケアをする。小まめに部下と連絡を取り、面談を重ね、面倒を引き受ける。徳の属人性ゆえに、一人で多くを抱え込むことになるのである。すると、孤立無援感が募り、ときに心が折れる。徳の高い上司自身が例外状態になってしまう。

もちろん、ここにも「手」が足りないという現実はある。人がたくさんいれば、負担が分散する。でも、それだけじゃない。現場の徳の高い上司たちからは、部下をケアすることが職場の中で評価の対象になりにくいことについての孤独の声が聞こえてくる。

手を動かすことは評価されやすい。生産や営業、開発という売り上げにつながる努力は数値にしやすく、人事評価に直結する。しかし、人を支えること、つながりを絶やさないことは、数値化しにくく、客観的に評価しにくい。かといって、それを無理にでも数値に置き換えればいいかというところうも思えない。数値にした瞬間に、数値になりえない例外への対応が切り捨てられかねないからだ。そもそも得点にならないことまでやってしまうのが、「^eX」なのである。

思えば、これは上司だけの問題ではなく、社会全体で起きていることだ。介護や保育のようなケアする仕事、家庭内での家事や育児などのケアをする人が社会的に評価されにくいことを思い出してもよい。

ああ、問題は根深い。働き手が足りない。人間には価値がある。円安人間高だ。ここまでは誰もが同意するはずなのに、その人間を支えるための人間を私たちは正当に評価することができない。だからだろう、今多くの人が管理職になることを厭^eう。それが大事な仕事だとわかっていても、本当のところその価値が自分の人生を支えるとは思えないのである。

どうしたらいいのか、わからない。でも、みんな本当は知っているのではないか？ 職場にも、社会にも、面倒臭いいい人がいたことで、自分がころうじてやってこられたことを。その人たちが孤独な思いをしていたことを。そして、それが見て見ぬふりされてきたことを。人間も、徳も、無限ではない。働き手不足はこの有限性に取り組む。切^e実な機会になっていて、その価値の再発見を迫っている。そのこと自体は箱の底の深いところで鈍く光る希望になるはずだと、私は思う。

（東畑開人 孤立する「面倒臭い」上司 （朝日新聞二〇二四年六月二〇日付）による。）

問一 傍線部 a のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 X に入るものとしてふさわしい四文字の言葉を文中から探し、答えよ。

問三 傍線部「人間を支えるための人間を私たちは正当に評価することができない」とあるが、それはなぜか。本文に即して三〇字以内で簡潔に説明せよ。